

全国公開実習(平成26・27年度)

(平成27年度は2～3月に予定されている見込み数を含む)

平成26年度は、菅平で行われている5つの実習と新たに開講した「海山連携公開実習」の計6つの実習を、全国公開実習として実施した。平成27年度は新たに「モデル生物多様性実習」(申請書の「モデル生物の野外多様性実習」に該当)を開講し、計7つの実習を全国公開実習として実施している。

1. 全国公開実習の利用状況

区分	平成26年度			平成27年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内(法人内)	1 (1)	98 (1)	503 (6)	1 (1)	113 (4)	579 (24)
国立大学	4 (0)	7 (0)	31 (0)	11 (3)	23 (3)	104 (16)
公立大学	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
私立大学	1 (1)	1 (1)	4 (4)	4 (1)	4 (1)	18 (5)
計	6 (2)	106 (2)	538 (10)	16 (5)	140 (8)	701 (45)

() : 院生数の内訳

2. 全国公開実習の利用学生の所属大学学部

年度	大学学部リスト
平成26年	静岡大学農学部、九州大学理学部、埼玉大学理学部、明治大学大学院農学研究科
平成27年	長崎大学水産学部、北里大学海洋生命科学部、名城大学農学部、埼玉大学理学部、愛媛大学理学部、鹿児島大学水産学部、東洋大学生命科学部、東京農工大学工学部、東京農工大学農学部、神戸大学農学部、島根大学生物資源科学部、京都大学医学部、東北大学理学部、東京農工大学連合農学研究科、東京大学大学院総合文化研究科、東京農業大学大学院農学研究科

3. 全国公開実習の利用学生の学年

年度	学部				博士前期課程 (修士課程)		博士後期課程 (博士課程)			計
	1年	2年	3年	4年	1年	2年	1年	2年	3年	
平成26年	1	6	0	0	1	0	0	0	0	8
平成27年	3	3	16	1	1	1	1	0	1	27

4. 全国公開の各実習の内容・実績

<平成26年度>

課題名	概要
1 植物分類学野外実習	筑波大学菅平高原実験センター内とその周辺の自然から様々な植物や菌類を採集し、分類に必要な形態やその他の形質について基礎的な知識を学ぶことを目的とする。7月21日-26日に全国公開実習として実施。受講生16名、うち共同利用大学0校、利用学生0名。
2 動物分類学野外実習	この地球上で最も繁栄している動物群の一つである。本実習は、この昆虫類を対象とし、講義ならびに実際の野外観察・採集・標本作成を行うことにより、この動物群の分類・系統・形態・節足動物における位置づけなどの基礎的知識を得、方法を修得することを目的とする。7月28日-8月2日に全国公開実習として実施。受講生19名、うち共同利用大学0校、利用学生0名。
3* 高原生態学実習	草原の植物群集と訪花昆虫群集を調査し、生物多様性や植物と動物の相互作用に対する理解を深める。9月2日-6日に全国公開実習として実施。受講生21名、うち共同利用大学1校、利用学生1名。

4*	森林生態学公開実習 (申請書での「森林の応用生物多様性学連携実習に該当」)	多様性、群集構成、バイオマスなどの関係やそれぞれの群集が今後どのように変化していくのかを調べながら、生物多様性の実際について理解を深める。9月8日-11日に全国公開実習および全国演習林協議会の単位互換公開実習の枠組みとして実施。受講生29名、うち共同利用大学2校、利用学生2名。
5*	海山連携公開実習	下田(海)と菅平(山)のフィールドに分布する生物相の観察および生物ピラミッドの調査を通じて、陸上生態系と海洋生態系の生物多様性とその共通性や差異を理解する。全国公開実習および単位互換方式による公開臨海実習の枠組みとして9月18日-21日に実施。受講生4名、うち共同利用大学2校、利用学生3名。
6*	陸域生物学実習	アニマルトラッキング、バードウォッチングや越冬節足動物の観察などを通して、典型的な中部山岳地帯の積雪期における動物を中心とした生物の生き様に触れ、生物に対する実物に即した認識を深める。筑波大学生物学類の授業科目としても実施するとともに、全国の国公立大学の学生の履修を公募する。2月16-20日に実施。受講生27名、うち共同利用大学1校、利用学生3名。

*他大学生が受講した実習

<平成27年度>

課題名		概要
1*	菌類分類学野外実習	筑波大学菅平高原実験センター内とその周辺の自然から様々な植物や菌類を採集し、分類に必要な形態やその他の形質について基礎的な知識を学ぶことを目的とする。7月20日-25日に全国公開実習として実施。受講生22名、うち共同利用大学3校、利用学生3名。
2	動物分類学野外実習	この地球上で最も繁栄している動物群の一つである。本実習は、この昆虫類を対象とし、講義ならびに実際の野外観察・採集・標本作成を行うことにより、この動物群の分類・系統・形態・節足動物における位置づけなどの基礎的知識を得、方法を修得することを目的とする。7月27日-8月1日に全国公開実習として実施。受講生30名、うち共同利用大学0校、利用学生0名。
3*	海山連携公開実習	下田(海)と菅平(山)のフィールドに分布する生物相の観察を通じて、陸上生態系と海洋生態系の生物多様性とその共通性や差異を理解する。全国公開実習および単位互換方式による公開臨海実習の枠組みとして8月16日-22日に実施。受講生12名、うち共同利用大学6校、利用学生12名。
4*	高原生態学実習	草原の植物群集と訪花昆虫群集を調査し、生物多様性や植物と動物の相互作用に対する理解を深める。9月1日-5日に全国公開実習として実施。受講生13名、うち共同利用大学4校、利用学生4名。
5*	森林生態学公開実習 (申請書での「森林の応用生物多様性学連携実習に該当」)	多様性、群集構成、バイオマスなどの関係やそれぞれの群集が今後どのように変化していくのかを調べながら、生物多様性の実際について理解を深める。9月7日-10日に全国公開実習および全国演習林協議会の単位互換公開実習の枠組みとして実施。受講生19名、うち共同利用大学2校、利用学生2名。
6*	モデル生物多様性実習 (申請書での「モデル生物の野外多様性実習」に該当)	野外でモデル生物の多様な近縁種を探することで、興味深い生命現象を進化させてきた自然の生態系と、そこでの多様な生き物との係わりを見出す。8月25日-29日に全国公開実習として実施。受講生19名、うち共同利用大学1校、利用学生1名。
7*	陸域生物学実習	アニマルトラッキング、バードウォッチングや越冬節足動物の観察などを通して、典型的な中部山岳地帯の積雪期における動物を中心とした生物の生き様に触れ、生物に対する実物に即した認識を深める。筑波大学生物学類の授業科目としても実施するとともに、全国の国公立大学の学生の履修を公募する。2月22-26日に実施予定。受講生29名、うち共同利用大学4校、利用学生5名。

*他大学生が受講した実習